

「Ⅰ」 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

「スマホを使うほど、学力が下がります」――。

これは、日本医師会と日本小児科医学会が2017年2月に発表したポスターに使われているフレーズのひとつです。ここまで断言してしまったていいのかとネット上で論議になったので、ご存じの人も ^A いらつしやることでしょう。

実際に、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」の分析では、スマホの利用時間が長いほど算数や国語の平均正答率が低下しているという結果が出ています。また、東北大学加齢医学研究所と仙台市教育委員会が発表した研究では、(1) 家庭での勉強時間が(2)、スマホを長時間利用していた子供は偏差値が低下していたというデータも報告されています。これはつまり、がんばって2時間勉強したとしても、スマホを何時間もやってしまったら、せっかくの学習効果が台無しになってしまうということ。こういった研究を根拠として、日本医師会と日本小児科医学会は、「スマホを使うほど、学力が下がります」という ^① 文 ^② 言 ^③ で ^④ ケイシヨウを鳴らしたわけです。

もの忘れ外来にいらつしやる患者さんは成人ばかりですから、私の場合、子供の脳に対するスマホの影響のことはよく分かりません。

ただ、スマホ、パソコン、タブレットなどの機器の長時間使用が ^B 子供の学力低下に影響するという研究は海外にも少なくありません。それに、現に成人には記憶力低下などの「学習機能低下現象」が見られるわけですから、子供の脳にも同様のことが起こっているであろうことは容易に想像できます。きっと、子供たちの脳も、スマホから入ってくる刺激や情報があまりに多すぎて、勉強したことがうまく頭に入らないような状況に ^③ 陥っているのではないでしょう ^④ か。

それに、私は「学力低下」に関しては、スマホ普及により学習のやり方や調べ物のやり方が大きく変わってきたことも影響しているのではないかと思います。

^C これは、大人にも子供にも共通することですが、最近「何かをもっと知りたい」「何かをもっとくわしく調べたい」というときに、専門の本を探して読んだり、図書館に行って調べたりする機会が減りました。いまは、スマホで検索すればたいの疑問がすぐに解決してしまいますから、わざわざ手間をかけて本を読んだり図書館で調べたりする必要がなくなってきたわけです。いわば、苦労したり考えたりしなくても、探している答えをすぐに見つけられるようになったわけですね。

しかし、これも脳にとつてはあまりよいことではないのです。

たとえば、「南太平洋のパラオにある世界遺産について調べなさい」という宿題が出たとしてもしょう。ここには「ロックアイランド群と南ラグーン」という素晴らしい世界遺産があるので、多くの人は名前すら聞いたことがないかもしれません。

この宿題をスマホやパソコンなしでやろうと思ったら、みなさんはどうしますか？　きっと図書館に行つて調べたり、百科事典を引いてみたり、詳しい人に話を聞いたりして、なんとか目の前の問題を解決しようとするよね。そうして、あれこれと苦勞して調べていけば、パラオの歴史や文化、日本との関係性などにも興味の目が行くようになり、この世界遺産の素晴らしさにだんだん心惹かれていくようになるでしょう。

じつは、こういうふう^④に手間^④ヒマをかけて問題を解決していくほうが、脳には多くの刺激がもたらされるし、学習した内容がより深く脳に刻まれるものなのです。

ところが、スマホでネット検索をすれば、「ロックアイランド群と南ラグーン」についてのアウトラインがほんの数分で分かつてしまいます。きつと、ウィキペディア^{注一}を読んで、いくつかの世界遺産紹介サイトをざつと^⑤ナガめて、それで^Dもう分かったような気になってしまうのではないだろうか。また、なかには紹介記事の内容もろくに読まずに、記事を丸写したりして「宿題完了！」という人もいるかもしれません。これだと、ネットで得た情報を機械的に写しているだけであり、この世界遺産の素晴らしさも分からないし、内容もほとんど頭に入りませんよね。

だから、ラクに答えが分かってしまうのも考えものなのです。どうも最近では、どんな「宿題」もスマホで簡単に調べられるようになったせいで、多くの人が「宿題」の内容や意味について深く考えなくなってきたような気がします。いつでもすぐ答えにありつけるようになったことで、^F未知への探求心や物事を学び取ろうとするエネルギーが逆に落ちてきたような気がします。

（3）あまりにラクに情報を得られるようになったために、「脳があまり考えなくなってきた」「脳があまり学ぼうとしなくなってきた」という傾向が見られるようになってきているのです。

もし、スマホ使用によってわれわれの学力がじりじりと低下しているとするとするならば、こういった点も少なからず関係しているのではないのでしょうか。

（中略）

いつもスマホに頼つてばかりいると、^G私たち人間が日々の生活を送るために必要不可欠な

ものが少しずつ失われていきます。

先ほどご紹介した日本医師会と日本小児科医会によるポスターでは、「スマホの時間 わたしは何を失うか」という文言をメインコピーとして、スマホを使いすぎると「学力」以外にもさまざまな能力が低下することが注意喚起されています。「学力」以外では、「睡眠時間」「体力」「視力」「脳機能」「コミュニケーション能力」などが失われていくと記載されています。

ただ、失われていくものは、これだけではありません。この他にも重大なものが失われていきかねないのです。

私がこれまで多くの「スマホ認知症」^{注一}の患者さんを診てきて、もともと痛切に感じているのは、「心身の健康」がてきめんに失われていく点です。私のクリニックにいらっしゃる「スマホ認知症」や「脳過労」の患者さんは、記憶力低下やもの忘れ以外にも、決まって多くの体調不良を訴えられます。

具体的に症状を挙げると、だるさ、疲労感、頭痛、めまい、不眠、肩こり、腰痛、冷え、動悸、息切れ、吐き気、便秘、下痢、胃痛、腹痛、食欲不振など。これらの不調症状は2つも3つも複数重なっているケースがほとんどです。また、イライラ、落ち込み、集中力低下、何もする気が起らない、気分が晴れない、キレやすくなったなどの精神症状を訴える人も数多くいらっしゃいます。

そして、「スマホ認知症」や「脳過労」をちゃんと治さずにこうした不調症状を放っていると、ほとんどの方がうつ病に移行していくようになるのです。

（奥村歩『10万人の脳を診断した脳神経外科医が教える その「もの忘れ」はスマホ認知症だった』より。

ただし、一部改変してある。）

注一 ウィキペディア——世界中のボランティアの共同作業によって執筆されるインターネット百科事典。

注二 スマホ認知症——筆者は、スマホなどのIT機器に頼りすぎることによって脳の機能を低下させてしまう病態を「スマホ認知症」と呼んでいる。

問一 傍線②・④・⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線①・③・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線A「いらつしやる」の敬語の種類は何か、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 丁寧語 イ 美化語 ウ 尊敬語 エ 謙譲語 オ 丁寧語

問四 空欄（ 1 ）・（ 2 ）に入る語の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 1 もしも 2 長かったら
イ 1 たとえば 2 長くなるなら
ウ 1 仮に 2 長ければ
エ 1 たとえ 2 長くても
オ 1 いくら 2 長くみても

問五 傍線B「子供の学力低下」とあるが、筆者はその原因はどのようなことにあると予想しているか。適するものをア～キの中から二つ選び、その記号を記入しなさい。

ア スマホによる大人の「学習機能低下現象」が、子供の脳に影響する。
イ スマホの情報が多すぎて、勉強したことが頭に入らない。
ウ スマホに長時間を費やすので、勉強の時間が減ってしまう。
エ スマホを長時間扱う家庭では、健康に留意していないことが多い。
オ 学習や調べ物をするときに、スマホから情報をラクに得ている。
カ スマホを四六時中身に着けていないと落ち着けなくなってしまう。
キ スマホによる認知症から、うつ病などになってしまうことが多い。

問六 傍線C「これ」が指し示す部分を文章中から探し、はじめの五字を記入しなさい。

問七 傍線D「もう分かったような気になってしまう」調べ方では、実はどんなものしか分かかっていないと筆者は述べているか、文章中から六字の語句を探し、記入しなさい。

問八 傍線E「意味」とあるが、「宿題」の意味について筆者はどのように述べているか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 脳が多くの刺激を得ることができ、学習内容がより深く脳に刻まれる。

イ スマホの普及によって低下した学力を高めることができる。

ウ 学習した内容よりも深い知識を身に付けることができる。

エ あまり学ぼうとしなくなった脳にエネルギーを与えることができる。

オ 学習した内容を決して忘れないように記憶することができる。

問九 傍線F「未知」の対義語として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 無知 イ 既知 ウ 有知 エ 英知 オ 予知

問十 空欄（3）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア そして イ すなわち ウ ところが エ あるいは オ だから

問十一 傍線G「私たち人間が日々の生活を送るために必要不可欠なものが少しずつ失われていきます」とあるが、筆者は日本医師会と日本小児科医会が示しているもの以外にどのようなものが失われると述べているか、文章中から五字の語句を探し、記入しなさい。

問十二 傍線H「失われていきかねない」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 失われていくことは避けられない

イ 失われていくかざるをえない

ウ 失われていくにちがいない

エ 失われていく可能性がある

オ 失われていかないようにしなければならない

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

フロムは、個々の子供を母親に結び付けている絆きずなと、未開社会のメンバーをその氏族や自然に結び付けている絆や、中世の人間を教会やその社会的階級に結び付けていた絆のような社会的な絆の双方を、「第一次的絆 primary ties」と呼ぶ。第一次的絆は、個人化のプロセスの①キケツとして個人が完全に自立する以前に存在する絆である。この絆に繋がつながれている間は自由ではないが、絆のおかげで帰属感と安定感が与えられる。

子供は成長していくにつれ、^A第一次的絆を少しずつ断ち切り、自由と独立を求めるようになる。絆から解き放たれた子供は、自分が親などの身近な他者たちから引き離されて孤独であることに気付き、^B無力感や不安に苛さいなまれることになる。外界（自然界＋社会）は実際、様々な危険に満ちている。これは、社会全体が個人の自立を前提にするようになる時に、各人の身に起こることである。絆から解放されたばかりの人は、自らの判断で未知の危険に対処しなければならぬ。

〔あ〕 成長するにつれて自らの能力の限界と外界の危険の深刻さを理解するようになった個人は、全てを自分だけで考えて実行するのではなく、新しい「絆」をつくって、他者の力を借りながら生きることを志向するようになる。

〔い〕 無論、その「絆」は「第一次的絆」と全く同じものではあり得ない。子供は^A次第に大きくなり、親は年老い、弱っていくので、赤子のような状態には戻れない。文字どおり、母胎と同じ状態に戻るのは最初から^イ不可能だと分かっている。

〔う〕 個人が、（第二の母胎ともいうべき）共同体から自立し、^ウ自由に活動し始めると、共同体を成り立たしめていた絆は次第に緩んでいき、人々を慣習や掟おきてに強く^②拘束し、統率することとはできなくなる。それに伴って、各人に^エ十分な保護を提供することもできなくなる。近代化の過程で、伝統的な村落共同体が次第に解体し、実質を失っていたというのは、^オ様々な歴史書に書かれていることである。

〔え〕 だとしても、一人で生きることへの不安があまりに高まってくると、外界に完全に没入したいという衝動が個人の内に生じてくる。それは、具体的には、親や共同体の掟をつくった神のように、自分を常に正しく導き、安心を与えてくれる「権威 authority」への「服従 submission」という形を取る。

「権威」に完全に「服従」し、全てを委ねてしまえば、孤独感や無力感を克服することはできるが、その代償として、自分自身の強さと人格としての自律性を失うことになる。その（１）に生殺与奪の権利を握られ、（２）の意志で行動することはできなくなる。とい

うより、(3) の意志とは異なる “自分の意志” を否定しなければならない。そうでないと、本当の意味での「服従」ではないし、自らの在り方に対する不安は解消しない。

ただ、それは自分が自分でなくなり、機械の部品か他人の身体のパーツのようになってしまったことを意味する。せつかく個として確立した自分が消えてしまう。そのことを本人も無意識では分かっている。それが、^C 更なる不安の原因となる。

一方で、フロムは、そうした「服従」が孤独と不安を^③ カイヒする唯一の方法ではないとも言っている。^D 矛盾を避ける唯一の生産的な方法は、「人間や自然に対する自発的な関係」である、と言う。

つまり、自分を取り巻く^④ 既存の人間関係に対して、全く無防備な受動的な態度で身を委ねていくのではなく、自発的に自分が獲得した、あるいは獲得しようとしている自由を活かせるような関係性をつくり出す、ということである。

自分の個性に合った居場所をつくり出せれば、それに越したことはない。(4)、そういう関係性をつくり出せる相手と場を見いだすことは容易ではない。見つけたと直感しても、いざ一緒に何かを始めようとすると、関係がぎくしゃくし始めたり、自分たちが一緒に追いかけるようにしている目的が実現不可能であることが判明したりする。居場所を見つけられそうだという期待が何度も裏切られるうちに、^⑤ アキラめの気持ちが強くなる。そうすると、孤立を力イヒするためには、たとえ自分の個性を否定することになっても、何か既存の権威に「服従」せざるを得ないという心境になる。個性化が進めば進むほど、「自発的活動」と「服従」の間の葛藤が大きくなる。^⑥

フロムはこのジレンマの原因は、^E 「分離と個性化」と「自我の成長」の速度のズレにあると指摘する。子供の分離と個性化は、身体の成長に伴って否応なく進行する。自我の成長は、家族との関係をはじめ社会的な諸条件によって制約を受け、各人は思ったように自分の能力を発揮できない。他者に自分を理解してもらい、自分の居場所を自力で確保することができず、不安だけが強まっていく、ということになりがちだ。

人類全体の歴史的発展についても同様なことが言える。共同体からの個人の分離はいつたん始まると、ダムの決壊が始まると止まらないように、どんどん進行していくが、新しい自由な関係をつくり出すための各人の能力が高まっていくとは限らないし、それに必要な機会や資源が増加するとは限らない。自然的・社会的な環境要因によって強い制約を受け、あまり自発性を発揮できないかもしれない。「分離と個性化」だけが進み、各人の自我がそれに見合うだけの能力を獲得していなかったら、一度獲得した「自由」が次第に重荷になり、たとえ不自由になっても、“元の状態”に回帰したいという欲求が強まってくる。

（仲正昌樹『人はなぜ「自由」から逃走するのか エーリヒ・フロムとともに考える』より。

ただし、一部改変してある。）

問一 傍線①・③・⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線②・④・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線A「第一次的絆」の説明として適さないものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 個人が自立する以前に存在する。

イ 共同体の中で自発性を発揮できる。

ウ 人々を慣習や掟に強く拘束する。

エ 個人は全く無防備で受動的である。

オ 個人には帰属感と安定感が与えられる。

問四 傍線B「無力感や不安に苛まれる」とあるが、そうなった子供はどのような反応をするか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 自らの能力の限界と外界の危険の深刻さを理解するようになり、慣習や掟に強く拘束されても元の共同体に戻ろうとする。

イ 親が年老い弱っていく現実に向直し、身近な他者たちから引き離された孤独を感じ赤子のような状態に戻りたくなる。

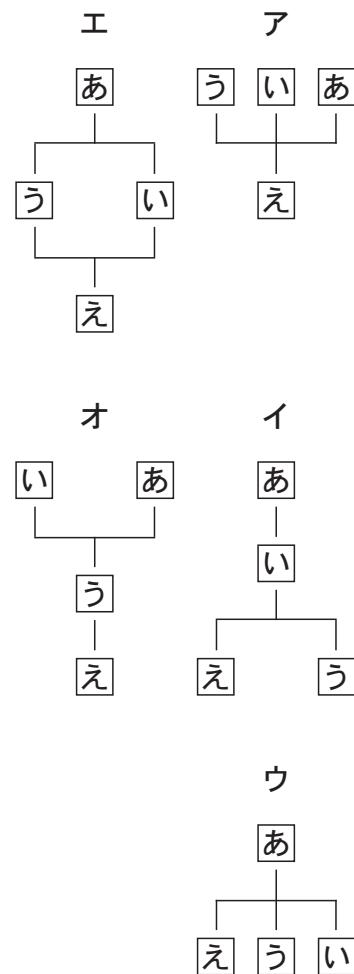
ウ 全てを自分だけで考えて実行することはできないと分かり、親や共同体の掟をつくった神にすがろうとする。

エ 自らの判断で未知の危険に対処しなければならなくなり、十分な保護を提供することができる他者の力を借りようとする。

オ 他者の力を借りるために新しい絆をつくろうとするが、一人で生きることへの不安が高まると権威に服従したくなる。

問五 二重傍線ア～オの中から品詞が異なるものを一つ選び、その記号を記入しなさい。

問六 **あ** **え** の段落の構成を図に表したとき最も適するものを **ア** **オ** の中から一つ選び、その記号を記入しなさい。



問七 空欄（ 1 ）（ ）（ 3 ）に入る語の組み合わせとして最も適するものを **ア** **オ** の中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	1	自分	2	相手	3	相手	イ	1	権威	2	自分	3	自分
ウ	1	相手	2	自分	3	権威	エ	1	権威	2	相手	3	権威
オ	1	相手	2	権威	3	自分							

問八 傍線 C 「更なる不安」とあるが、**も** **と** **の** **不** **安** とは何か、最も適するものを **ア** **オ** の中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	一人で生きることへの不安	イ	自分が自分でなくなる不安
ウ	自らの在り方に対する不安	エ	人格としての自律性を失う不安
オ	自らの判断で危険に対処する不安		

問九 傍線 D 「矛盾」を説明した次の文の（ ）に適する語句を文章中から**十六**字で探し、記入しなさい。

自由と独立を求めて自立したのに、孤独感が高じてくると（ ）が生じてくること。

問十 空欄（ 4 ）に最も適するものを **ア** **オ** の中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	しかし	イ	したがって	ウ	または	エ	ときに	オ	しかも
----------	-----	---	-------	---	-----	---	-----	---	-----

問十一 傍線E『分離と個性化』と『自我の成長』の速度のズレ」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 共同体から分離し個性化していく速度が、分離後の自我の成長の速度より遅いこと。
- イ 分離と個性化の速度より、居場所を確保できない不安が増大する速度が速くなること。
- ウ 自我の成長の速度は諸条件で速められるが、分離と個性化は無制限に速められること。
- エ 分離と個性化の速度は一定だが、自我の成長の速度は個人の能力によつて違うこと。
- オ 自我の成長の速度が、共同体から分離し個性化していく速度に追い付かなくなること。

問十二 この文章の要旨として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 自分の意志を否定して本当の意味での服従をしなければ、自らの在り方に対する不安を根本的に解消することはできない。
- イ 居場所をつくり出すことができれば、第一次的絆から解放されて獲得した自由から逃走したいと考えるようになる。
- ウ 居場所をつくり出すことは難しいので、孤立を逃れるために権威に服従せざるを得ないという心境になるのは当然である。
- エ 自由と独立を獲得した後の孤独と不安をなくすためには、人間や自然に対する自発的な関係をつくり出す必要がある。
- オ 権威に完全に服従すれば孤独感や無力感を克服できるが、自分自身の強さと人格としての自律性を失うことになる。

国語

解答用紙一

[I]

問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
										①	②
										③	④
										つて	
										⑥	⑤
											めて

受験番号	
------	--



国語

解答用紙二

Ⅱ

問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
										②	①
										④	③
										⑥	⑤
											め

受験番号		★
		★